

ベルギー・ゲント市 モニック・ダルジュさん

1990年8月の、ある夜。夫と共に音楽財団を運営し、自らも演奏者として世界で活動するモニック・ダルジュさん(58)は、支部副部長(地区婦人部長、グループ長兼任)は、成田空港をたつ飛行機のシートに身を沈め、この数日間のことを

ロボットオーケストラ

古びた石畳と穏やかな運河が、中世の面影を色濃く残す街・ゲント。「花の都」とも呼ばれるこの地で、モニックさんはゲント大学の助教授を務めている。

同時に、音楽表現の新たな可能性を追求し、異文化の懸け橋になることを目指す財団「ロゴス」を運営する芸術家でもある。

近年取り組んでいるのは「M&M (Man & Machine)」と「SUTENA」である。

夫のゴッドフリッド・ウィレム・ラースさんが考案、制作したロボット・オーケストラ(センサーなどにより人の動きに合わせて自動で演奏できる「機械

思い返していた。今回は、日本でのコンサート。とりわけ印象深かったのは、とても親切な、ある婦人との出会いがあったことだ。その出会いが以後の人生を大きく変えることなど、この時の彼女は、想像だにしていなかった。

輝くSGIの友

73年に結婚、美術史などの教員を務めていたモニックさん。現在のような芸術活動に本格的に打ち込むようになったのは、80年ごろからである。

その斬新な音楽は、すぐに注目を集めた。アメリカでは、各州の芸術協会などから「作曲賞」「新作品賞」等を次々と受賞する。だが、称賛を浴びる声を得ても、モニックさんの心には常に、迷いにも似た自問が影を落としていた。「私の人生、何を指して生きたいのか」という問いである。

むしろ、社会で成功

励ましの音を奏でたらー！



90年8月、モニックさん夫妻は、コンサートのために徳島県を訪れた。その際、通訳を務めてくれたのが高橋栄子さん(58)東みよし町、三好支部、地区副部長だった。

「まるで昔からの友人のように、エイコは親しみ深く接してくれました」とモニックさんは言う。

「つたない英語で恐縮でしたけど」と高橋さん。「彼女の人間性が書いてあった。」

「一人でも多くの人に、元氣と希望を届ける音楽を」とモニックさん。地球を舞台に、芸術と使命の探求は続く(右は夫・ゴッドフリッドさん) ©Heaven White

皆が幸福になれる歌?」

「まだ昔からの友人のように、エイコは親しみ深く接してくれました」とモニックさんは言う。

「つたない英語で恐縮でしたけど」と高橋さん。「彼女の人間性が書いてあった。」

「一人でも多くの人に、元氣と希望を届ける音楽を」とモニックさん。地球を舞台に、芸術と使命の探求は続く(右は夫・ゴッドフリッドさん) ©Heaven White



オランダ・ヘアトリクス女王の前で、音楽を演奏するモニックさん ©Gianni Barboux

音楽家・芸術家として 30カ国へ

人間の可能性を触発

人を励ますことが、術のことだ」と。自分を励ますこと——そう信じて信仰活動に励むSGIメンバーに触れるうち、モニックさんは長年の疑問への答えを見いだす。

夫と共に目指してきた、あらゆる壁を越える芸術。それは、人間の無限の可能性を触発する「励ましの音

政府の「文化大使」で活躍 国王・女王の前でも演奏

人への活動に対する大きな自信が生まれた。「さらには、私たちのパフォーマンスを見た人が、自分にも無

限の可能性があると気付くよう、本気で願うようになりました」

御書には「一人のために灯をともしてあげれば、自分の前も明るく晴れ渡った心を映し出すように、作る音楽も明るくなった。」

モニックさん夫妻は97年、政府の「文化大使」に任命される。国の芸術・文化を、世界に広く発信する、新たな使命を与えられたのだ。

なるようなものである(1998年)、通解)と。この一念に立った時、モニックさんの芸術の境地は大きく開けていった。

2006年6月、オランダのヘアトリクス女王が、ベルギーのアルベール2世国王・パオラ王妃と共にゲント

紙のぬくもり...

市立現代美術館をた際、モニックさん夫妻が女王の前で、ロボット音楽を演奏。の活動が、地域・誇る芸術として認められた証だった。